

平成 2 6 年第 3 回議会定例会（諸般の報告）

開会に当たり、諸般の報告を申し上げます。

はじめに、まず印西クリーンセンター次期中間処理施設の整備事業について申し上げます。

印西地区環境整備事業組合が設置した「次期中間処理施設 整備事業用地検討委員会」において、候補地の順位付けを行うため、公募のあった 4 箇所に現在地を含めた 5 箇所の候補地について、審査を進めております。

「施設の建設・運営に適さない用地を評価する視点」で行われた 2 次審査の結果、5 箇所すべての候補地が 3 次審査に進むこととなりました。

また、6 月 7 日から 7 月 2 6 日までの間に、候補地に関連する周辺住民の意見交換会を地区毎に計 1 5 回開催し、様々な意見をいただくとともに、アンケートも実施したところです。

これらの結果を踏まえ、「より良い施設となり得る 用地を評価する視点」で 3 次審査を行い、9 月下旬には最終答申がなされる予定であり、市としましても、今後の審査の状況を注視してまいります。

次に、タウンミーティングについて申し上げます。

現場主義、市民の声が活かせるまちづくりを推進するため就任以来毎年実施しており、今年も 7 月 1 2 日、1 3 日及び 1 9 日の 3 日間で市内 6 地区において開催しました。

今年度は、平成 2 8 年度を開始年度とする第 5 次総合計画及び都市マスタープランの策定を進めていることから、1 0 年後の「市と各地域の将来像」を市民と一緒に考える機会として、ワークショップ形式で開

催しました。

6地区合計で146人の市民に参加いただき、白井市の将来像をテーマとして直接多くのご意見、ご提案などを伺いました。いただいたご意見やご提案は、これからの総合計画及び都市マスタープランの策定に活かしてまいりたいと考えております。

次に、白井市高齢者見守りネットワーク事業について申し上げます。

7月17日に事業の趣旨に賛同いただいた96社の事業者と高齢者見守りネットワーク事業 連携協定書を締結いたしました。

協定書を締結していただいた事業者の方々が普段の宅配や訪問等の業務中に心配な高齢者の存在に気付いたとき、速やかに市へ連絡や相談をいただくもので、支援が必要な高齢者を早い段階で発見し、支援を行うことができる体制を整備するものでございます。

本市でも高齢化が進んできておりますが、高齢者の孤立や孤独死を防ぎ、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、これからも趣旨に賛同いただける事業者を増やしていくことにより、多様な目で高齢者を見守り、支えていくネットワークの構築を図り、安心して暮らせるまちづくりを目指してまいります。

次に、白井市のマスコットキャラクター「なし坊ファミリー」を活用した市のPRについて申し上げます。

「なし坊ファミリー」につきましては、平成7年から市のイメージキャラクターとして、さまざまな場面で活用し、市のPRに努めております。

この7月からは「なし坊ツイッター」を開始し、市の情報をお知らせする媒体のひとつとして活用しているところです。

平成 26 年 5 月 28 日に「なし坊ファミリー」の商標権を取得したことを 6 月議会で報告いたしました。この「なし坊ファミリー」を事業者にも活用してもらい、市の知名度の向上 や 地域経済の活性化 を期待して、「なし坊ファミリー」使用取扱要綱を定め、5 月 30 日から施行したところ、このデザインを活用した商品の申請が 2 社からありました。

なし坊を活用した「ストラップ」や「フェイスタオル」、「ポロシャツ」のほか、「クッキー」や「パズル」、「缶バッジ」など、様々な商品が 8 月 23 日から販売されております。

今後も、市民や事業者との連携を図りながら、市の P R や地域の活性化につながるよう、取り組んでまいります。